

# 風"s・風のたよりオンライン版

---

2012/1/5 No.174

---

## 風のたより174号

1月14日の風"sのフェアトレード・デーは、2つの企画「東日本と世界と結ぶフェアトレード・チョコセット」と「も～やっこチョコ」を企画、500円以上お買い上げの方に、風"sのフェアトレード産品を10%引きで買えるチケットをお渡しします。（翌日から3ヶ月有効）

### ■ 東日本と世界と結ぶフェアトレード・チョコセット

今、途上国のことなど考えている場合ではない。フェアトレードの話に、そんな声もきこえて来ることがあります。

もちろん、この寒い冬がなお一層つらく思われる震災にあわれた方々、思いをはせれば言葉もありません。

地球上に住む人々が東日本で震災にあった人々のようにつらい思いをして暮らしているのも見過ごすわけにはいきません。今困っている人たちは世界も日本も同じです。その人たちを思う気持ちも同じです。

日本のフェアトレード団体は、途上国への支援の経験をもとに動きだし、いまでも活動は続いています。

その活動のなかで支援だけではなく、「仕事づくり」の提案をしている団体もあります。

手編みのハートブローチや、クリスマスオーナメントなど、編み物など手作りの仕事をすることで癒されていく女性達もいます。そして実際に収益にもつながってゆきます。

### ■ 陸前高田などで作られた、ハートブローチやオーナメント



フェアトレード・ショップ風"sでは、東日本の手仕事とフェアトレードのチョコレートセットにした、「東日本と世界と結ぶフェアトレード・チョコセット」を企画しました。

実際に収入につながっていくこともとても大切ですが、作ること、手を動かすこと、働くことで違う環境を生み出し、実際に注文が入るといことは、買う人がいるということ、作る人達のことを思って買う人がいるという、このつながり、こころとこころがつながることが一番かもしれない。手作り品だけで生活がまかなえるところまで行かないし、すべての人にその仕事を回すこともできないとは思いますが。

## ■ 日本再生のお守りにしよう！

できることから動き始めたプロジェクトを、買うことで、仕事を作ることで支える事ができたら、私たちにとっても喜びにつながります。何をしたらいいのか私たちも分からない。募金もそうは続かない。たとえ援助のお金が届いても現地の人のごころは、満たされない。このような事は、発展途上国の人々の暮らしと似通っています。

仕事を生み出すプロジェクトの輪がどんどんひろがれば、また新しい何かが生まれてくるように思う。何かはわからないけれど、こころのリレーが手作りものを通じて形になり伝わっていく。おおきなハートが膨らんでいったら、小さなハートがいくつもいくつもつながって行くイメージだ。いつも思っていますよ。という証しに身につけるブローチ、手元に飾るオーナメント。日本が生まれ変わるお守りにしよう！

## ■ そのお守りを持つところが、世界へも届く

今年も年があければ1月終わりくらいからバレンタインデーへの動きがはじまります。

フェアトレードのチョコも10年以上健闘してきて、ここ数年フェアトレード団体のピープルツリーの他にもフェアトレード・チョコの種類が増えました。

たった一言「美味しい！」からですが、やはり甘いチョコの影にあるカカオ農場で働く児童労働の問題が見えてきたことも大きな要因だと思う。

世界の児童労働に従事する子どもたちは2億1500万といわれています。カカオを生産する国も、チョコを食べる国と、同じくらいに清潔な水や食があり、家身あり、仕事もあり、人間らしく生きることのできる環境であってほしいと願います。

## ■ 「も～やっこチョコ」は名古屋の街チョコ 今年で3年目の企画です。

共同で一つの事をしたり一つの物を所有したりする「もやい」からきていると思われる、「も～やっこ」は、子どものごころよく使っていました。「も～やっこでしようね」仲良くというような意味。

290円（50g）、580円（100g）のフェアトレード・チョコを300円、600円で購入して頂き、それぞれ10円、20円寄付して頂きます。まとめて同額を風"sが加算して、東日本への寄付金とします。いままでも合計46万円フェアトレードの団体（ネパリ・バザー-東日本大震災サポート）とレスキューストックヤードという地域の団体に寄付してきました。今年も店頭募金と、バザーなどの収益15%の寄付

を続けるつもりです。

## ■ チョコで「知ること、想像すること、考えること、行動すること」を実行！

バレンタインで浮かれるこの時期に、大地に足をつけて考えるきっかけをつくりたいと思うのが、フェアトレード・チョコの話です。

特に子どもたちに同じ年齢の子どもたちが、働かされている世界に目をむける機会を自分たちで考えるワークショップ形式で伝えて行きたいと、「名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会」（略称なふたうん）は20回以上国際理解教育のワークショップ「チョコレートの来た道」を開催してきました。

ブログにて学校関係の報告を参考にしてください。

## ■ フェアトレード・タウン運動とESD

ESDとは、Education for Sustainable Developmentの略で、持続可能な開発のための教育、を意味します。

2002年ヨハネスブルグサミットで、日本政府とNGOが「国連持続可能な開発のための教育の10年」を共同で提案、その後国連で採択され、2005年からの10年をキャンペーン期間として活動が続けられています。日本では文部科学省、環境省などがイニシアティブをとり学校、地域で取組を進めていますが、まだまだ市民権を得る状況にはなっていません。

そして、最終年2014年の最終会合が愛知県・名古屋市（岡山市）で開催されることとなりました。開催地となった愛知県・名古屋市は2014年に向けてさらにESDの普及・実践を進める予定です。

フェアトレード・タウン運動は、行政・議会・企業・学校・NPO/NGO・一般の人々みなでフェアトレードを推進していく街のことですが、学校現場ではESDの押し進める国際理解教育のようなワークショップが大変有効で、そのなかでもフェアトレードを題材にすることは、日常の買い物から世界を知る、先進国の私たちがだれかを犠牲にしなければなりたないことを知ることにつながるのので、とりわけ大事だと実感しています。

## ■ 新しい年に改めて誓う、未来の子どもたちのために私たちは最善をつくすことを！

2年前くらいの年末年始のテレビ番組はこぞって、地球環境悪化の特集を組んでいました。今年は見たい番組もなく過ごしましたが、地球の環境問題はますます重要課題です。一人一人の意識が変わらない限り、子どもたちに地球を託すことはでき

ない。

3・11のもたらした事実はあまりにも大きい。が、大きいゆえに大きく私たちが変化する時をもらった。時が立つにつれ慣れてきてはいけないと自分自身に言い聞かせています。

■ 私たちがどんな街に暮らしてゆきたいか、私たちが考えよう！

地域でまわる経済、地産地消で頂く食べ物、エネルギーもそうしたい。子育ても、介護問題も地域で共に考えて行きたい。そんなことをつなぐのが「フェアトレード」と私は思っています。縁を「フェアトレード・タウン運動」は作ります。みんなの思いをつないでゆきます。思いや行動は、一人一人違う。だからこそつながって、響きあって奏でる事ができると思う。

「つながって、響きあって、奏でよう！ 私たちの望む暮らしを」おかげさまで生きているということを感じる街になったらいいなと思います。

■ チョコに関する 風のたより は下記を参照ください。

[167号](#)

[157号](#)

[145号](#)

[144号](#)

[128号](#)